

## 個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)

- 言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け
  - ・言葉の働き、役割
  - ・書き言葉(文字)、話し言葉、言葉の位相
  - ・語、語句、語彙
  - ・文の成分と構成
  - ・文と文の関係、段落と文章の関係
  - ・文章全体の構造
  - ・表現の工夫(修辞など)
- 書写に関する知識・技能
- 伝統的な言語文化に関する知識・技能
- 話合いや話し方・発表に関する知識・技能
- 情報活用に関する知識・技能

など

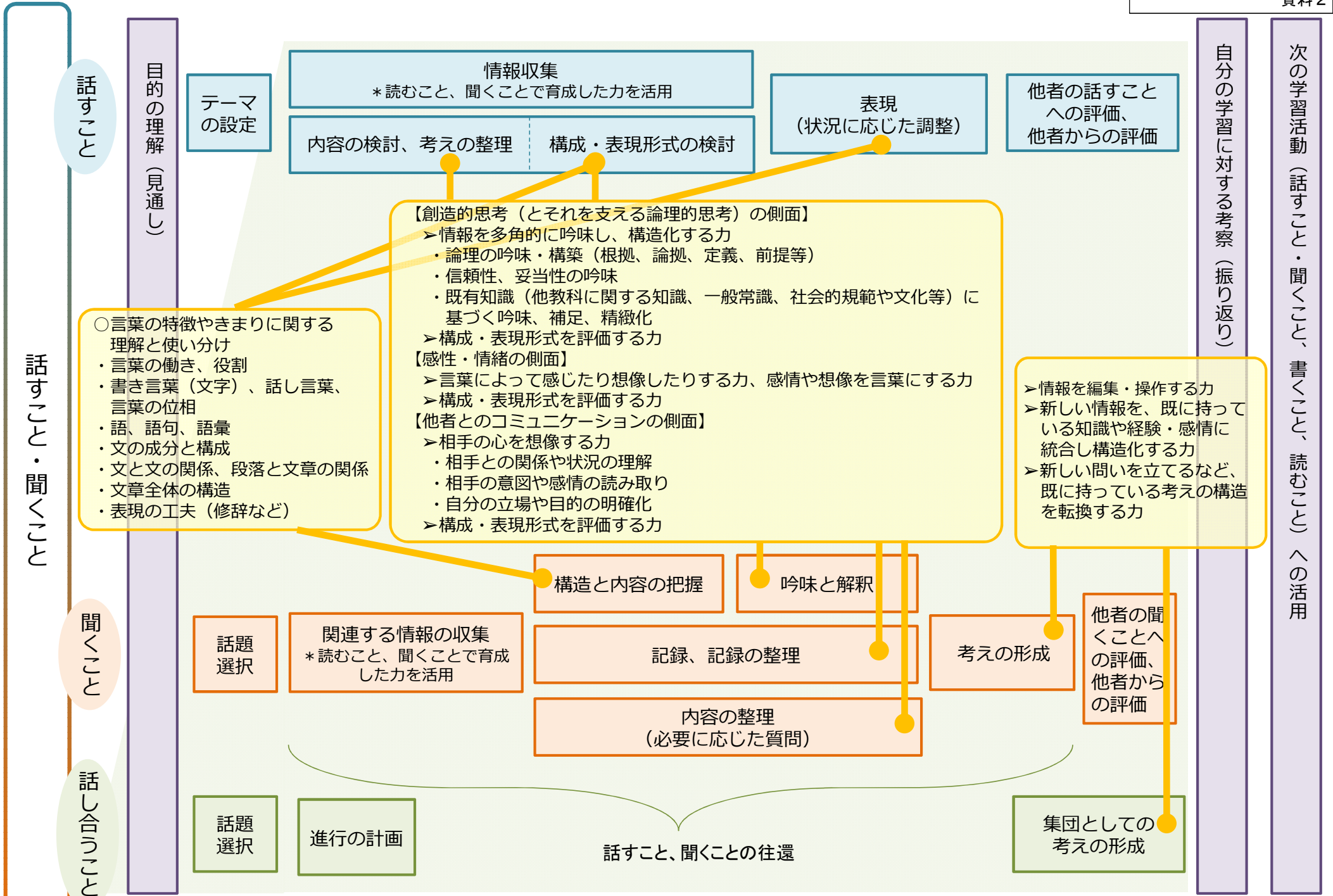
## 思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)

- ◆テキスト・情報を理解する力、文章や発話により表現する力  
【創造的思考(とそれを支える論理的思考)の側面】
  - 情報を多角的に吟味し、構造化する力
    - ・論理の吟味・構築(根拠、論拠、定義、前提等)
    - ・信頼性、妥当性の吟味
    - ・既有知識(他教科に関する知識、一般常識、社会的規範や文化等)に基づく吟味、補足、精緻化
  - 構成・表現形式を評価する力
- 【感性・情緒の側面】
  - 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力
  - 構成・表現形式を評価する力
- 【他者とのコミュニケーションの側面】
  - 相手の心を想像する力
    - ・相手との関係や状況の理解
    - ・相手の意図や感情の読み取り
    - ・自分の立場や目的の明確化
  - 構成・表現形式を評価する力
- ◆考えを形成する力(個人または集団として)
  - 情報を編集・操作する力
  - 新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合し構造化する力
  - 新しい問いを立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力

## 学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)

- ・国語を通じて、自分のものの見方、考え方を深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団の考えを発展させようとする態度
- ・様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にするとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通じて、心を豊かにしようとする態度(自分の感情をコントロールしようとする態度)
- ・言葉には、自分の伝えたいことが正しく伝わらなかったり、相手を傷つけたりする場合があることを認識した上で、言葉が持つ力を信頼し、国語を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者の心と共感するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度
- ・我が国の言語文化に対する関心、及び、言語文化を享受し、生活や社会の中で活用し、継承・発展させようとする態度
- ・自ら進んで読書をし、読書を通して、知らないことを知ったり、経験のないことを体験したり、新しい考えに触れたりするなどして人生を豊かにしようとする態度

# 国語科における学習活動の要素(イメージ案)



※必ずしも一方通行、順序性のある流れではない。

書くこと

目的的理解(見通し)

テーマの設定

情報収集  
\*読むこと、聞くことで育成した力を活用

内容の検討、考えの整理

構成・表現形式の検討

記述

他者の書くことへの評価、他者からの評価

推敲

自分の学習に対する考察(振り返り)

次の学習活動(話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと)への活用

- 言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け
- ・言葉の働き、役割
  - ・書き言葉(文字)、話し言葉、言葉の位相
  - ・語、語句、語彙
  - ・文の成分と構成
  - ・文と文の関係、段落と文章の関係
  - ・文章全体の構造
  - ・表現の工夫(修辞など)

- 【創造的思考(とそれを支える論理的思考)の側面】
- 情報を多角的に吟味し、構造化する力
    - ・論理の吟味・構築(根拠、論拠、定義、前提等)
    - ・信頼性、妥当性の吟味
    - ・既有知識(他教科に関する知識、一般常識、社会的規範や文化等)に基づく吟味、補足、精緻化
  - 構成・表現形式を評価する力
- 【感性・情緒の側面】
- 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力
  - 構成・表現形式を評価する力
- 【他者とのコミュニケーションの側面】
- 相手の心を想像する力
    - ・相手との関係の理解
    - ・相手の意図や感情の読み取り
    - ・自分の立場や目的の明確化
  - 構成・表現形式を評価する力

- 情報を編集・操作する力
- 新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合し構造化する力
- 新しい問いを立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力

読むこと

選書(本以外も含む)

構造と内容の把握

吟味と解釈

考えの形成

他者の読むことへの評価、他者からの評価

※必ずしも一方通行、順序性のある流れではない。

# 国語教育のイメージ（1月19日検討用）

平成28年1月19日  
教育課程部会  
国語ワーキンググループ  
資料3

高等学校基礎学力テスト  
(仮称)



## 【高等学校】

- ①言語文化に対する関心を深め、生涯にわたり国語を尊重してその向上を図る態度を養う。
- ②文章や発話の内容や展開、それらに含意された意味を、論理や既有知識に基づいて解釈したり、情報の信頼性等を考察して整理・構造化し、自分の思いや考えを表現したりすることができる。また、社会的文化的背景を有する未知の情報を、既有の知識や経験・感情に体系的に統合して構造化したり、他者と異なる発想や主張を独自の論理や表現によって確立したりするなどして、考えを形成することができる。
- ③生涯にわたる社会生活や専門的な学習に備えた言葉の特徴やきまり等を理解し、それらを使い分けることができる。

## 【中学校】

- ①国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を養う。
- ②文章や発話に表現されている内容や展開を根拠に基づいて解釈したり、情報を整理・構成して自分の思いや考えを表現したりすることができる。また、社会生活における様々な情報を、既有の知識や経験・感情に基づいて解釈し、整理・構成したり、新たな発想や主張を形成したりするなどして、考えを形成することができる。
- ③社会生活に必要な言葉の特徴やきまり等を理解し、それらを使い分けることができる。

## 【小学校】

- ①国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を養う。
- ②言葉を手掛かりに、文章や発話に表現されている内容や大まかな展開を捉えたり、順序やまとまりを考えて情報を整理して、自分の思いや考えを表現したりすることができる。また、他者の思い・考えや新たな情報を、自分の思い・考えや既知の情報に照らして取り入れたり、更に確かめたいこと、調べたいことを意識化するなどして、考えを形成することができる。
- ③日常生活や学習に必要な基本的な言葉の特徴やきまり等を理解し、それらを使い分けることができる。

## 【幼児教育】

（教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

- ・友達同士で目的に必要な情報を伝え合ったり、活用したりする。
- ・相手の話の内容を注意して聞いて分かったり、自分の思いや考えなどを相手に分かるように話したりするなどして、言葉を通して教職員や友達と心を通わせる。
- ・イメージや考えを言葉で表現しながら、遊びを通して文字の意味や役割を認識したり、記号としての文字を獲得する必要性を理解したりし、必要に応じて具体的な物と対応させて、文字を読んだり、書いたりする。
- ・絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わうことを通して、その言葉のもつ意味の面白さを感じたり、その想像の世界を友達と共有し、言葉による表現を楽しんだりする。

全国学力・学習状況調査



# 言葉の働き(機能)と仕組みについて

平成28年1月19日  
教育課程部会  
国語ワーキンググループ  
資料5

## 言葉の働き(機能)

◆日本語も外国語も、言語として、同じ言葉の働き(機能)を持っている。

(ヤコブソンの6分類) ※理論的に区分した分類であり、実際の言語活動は、複数の機能を同時に果たしている。

### 【主情的機能】

心や身体の状態変化を外部に表出する機能。  
Ex. 感嘆詞、間投詞など。

### 【詩的機能】

具体的な内容を伝達することよりも、メッセージそのもの(音の響き、リズム、形態、統辞、語彙など)に着目した機能。

### 【働きかけ機能】

相手に訴え、相手を動かす機能。聞き手を何らかの行動へと駆り立てる、一種の働きかけ。

### 【交話的機能】

言葉を交わし合うこと自体が、互いの心を通わせ、一体感を高める働きをすること。  
Ex. 挨拶、相槌、井戸端会議

### 【指示的機能】

内外の環境世界を、言葉という手段を使って解釈し、描写し、記録する機能。

### 【メタ言語的機能】

本来、事物や事象などの対象を語る「オブジェクト言語」に対して、言語そのものを語る機能。

(参照:「言語とメタ言語」R.ヤコブソン(池上嘉彦、山中桂一訳) 勁草社、「教養としての言語学」鈴木孝夫著 岩波新書)

※ヤコブソンの6分類は、対人コミュニケーションの場面における「言葉の働き」を整理したものであるため、この6分類のほか、内言語機能(思考のための内なる言語活動)があることに留意する必要がある。

◆国語の果たす役割、個人にとっての国語

### ①知的活動の基盤

- ・あらゆる「知識の獲得」と「能力の形成」にかかわるもの
- ・思考そのものを支えている
- ・論理的思考力や創造性の基盤

### ②感性・情緒等の基盤

- ・美しい日本語の表現やリズム、人々の深い情感、自然への繊細な感受性などに触れ、美的感性や豊かな情緒を培う

### ③コミュニケーション能力の基盤

- ・言葉や文字などによる意思や感情などの伝え合い
- ・「人間関係形成能力」や目的と場に応じて「効果的に発表・提示する能力」の根幹

(参照:「これからの時代に求められる国語力について」文化審議会答申)

◆「言葉の働き」に関する現行の学習指導要領における主な記載

### 【国語科(小学校)】

- ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
- ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。

## 言葉の仕組み

- ◆日本語や英語をはじめとするそれぞれの言語は、共通の基盤である「言葉の普遍性」と、それぞれ固有の特徴(仕組み)である「個別性」を持っている。

### ○音声

- ・日本語の母音や子音と、英語の母音や子音には違いがある。
- ・それぞれの言語において、母音と子音を組み合わせた音節の作り方に違いがある。

など

### ○語(分節、ことばによる世界の切り分け方)

- ・単語は、日本語と外国語(英語)が一对一に対応しているわけではない。  
【例】日本語の「水」は「湯」と区別して用いるが、英語では温度に関係なくwaterを用いる。
- 【例】着る…身に付ける動作と身に付けている状態の両方を表す、上着やワンピースに使う wear…身に付けている状態を表す、上着やワンピースのほか眼鏡やヘアスタイルにも使う
- ・背景となる文化が語に影響を与えている。  
【例】英語の“rice”に当たる語は、日本語では、「稲」「米」「ご飯」と複数ある。

など

### ○テキストの構造、語順、主語・述語・目的語等

- ・日本語と英語では、語順の自由度に違いがある。  
【例】日本語：太郎は、花子が好きだ。＝花子が、太郎は好きだ。
- ・語順や区切りを変えることで、意味が変わることがある。  
【例】警察官が、自転車で逃げた泥棒を追いかけた。／警察官が自転車で、逃げた泥棒を追いかけた。  
赤い、ストライプのシャツ／赤いストライプのシャツ

など

### ○テキストの文脈上の意味

- ・テキストの意味は常に一定ではなく、文脈(状況、場面、相手等を含む)によって変化するものであり、このことは全ての言語に共通する。  
【例】「電話が鳴っているよ。」  
※「電話が鳴っている」状況を描写したのではなく、「電話をとって欲しい」という依頼の意図が含まれている。  
「時計持っている？」  
※腕時計をしているかを聞きたいのではなく、「今、何時？」という質問の意図が含まれている。
- ・使用者や文脈との関係によって、それぞれに適切な表現は異なる。  
【例】英語においても、日本語の敬語表現とは異なるが、“Would you please ～？”等の敬意表現がある。  
【例】人に名前を聞くときは、通常、“Who are you？”ではなく、“What’s your name？”を使う。

など

### ○文字、表記の在り方

- ・言葉の表出は、音声と文字に分かれるが、文字を持たない言語もある。
- ・日本語は、一つの言葉を平仮名、片仮名、漢字の3通りで書くことができ、この3種類の文字を混ぜて文を書くが、英語はアルファベットの1種類のみを用いる。
- ・現代の表記においては、英語は発音とつづりが1対1に対応しているわけではないが、日本語は発音と平仮名、片仮名の表記がほぼ一致している。

など



- ◆現状と課題(平成27年度全国学力・学習状況調査【小学校】の結果より)

○文の中における主語を捉えることに課題がある。(正答率53.4%)

○登場人物の相互関係を捉えることに課題がある。(正答率67.7%)